

吹田市中学校給食の経過について

年	月	項目
平成16年 (2004年)	6月	吹田市小・中学校給食検討会議を設置
	12月	検討会議から「吹田市の小・中学校給食の在り方について(提言)」を教育長へ提言 【資料4】
平成21年 (2009年)	1月	モデル事業開始(3校 豊津中・西山田中・古江台中)
	10月	給食実施校拡大(6校 第三中・第六中・片山中・南千里中・豊津西中・竹見台中)
平成22年 (2010年)	10月	給食実施校拡大(5校 第一中・第五中・佐井寺中・高野台中・山田東中)
平成23年 (2011年)	10月	給食実施校拡大(3校 千里丘中・第二中・青山台中)
平成24年 (2012年)	2月	給食実施校拡大(1校 山田中) 全校実施
平成25年 (2013年)	9月	インターネット利用における月2回の予約開始
平成26年 (2014年)	7月	生徒・保護者対象の中学校給食に関するアンケート調査
平成27年 (2015年)	5月	吹田市中学校給食検討会議を設置
平成29年 (2017年)	5月	中学校長等への中学校給食に関する意見調査
	7月	生徒・保護者対象の中学校給食に関するアンケート調査 総合教育会議の協議題として「中学校給食のあり方」を議論 【資料9】
平成30年 (2018年)	4月	生活保護費(教育扶助)の対象 卒業時までの「継続一括予約」の申し込み開始
	8月	「ご飯」の量について大盛り対応開始
平成31年 (2019年)	4月	給食費を改定(300円→340円)
令和元年 (2019年)	9月	生徒・保護者対象の中学校給食に関するアンケート調査 【資料8】
令和2年 (2020年)	6月	新型コロナウイルス感染症緊急対策アクションプランにて、令和2年度の生徒の給食費を半額

「吹田市の小・中学校給食の在り方について(提言)」より

【結論】

導入時のコストが抑えられる「食堂方式」か「デリバリー方式」で、家庭弁当の持つ親子のふれあいや愛情を大切にしたい教育的効果を残せる「選択制」が望ましい。

【本文】

『保護者の多くが望んでおられる自校調理方式の「小学校と同じ学校給食方式」については、調理室を建設できる敷地が必要であること。また、小学校と同じような調理室の建設には多額の費用が必要であり、現在の厳しい財政状況の下では、困難であると思われます。

したがって、比較的建設費がおさえられ、生徒の多くが望む「食堂方式」又はイメージがわからず低率になったとはいえ、生徒に喜ばれ利用率が高くなるように配慮された「デリバリー方式」が望まれます。』

『持参の弁当が持つ親子のふれあいや、愛情を大切にしたい教育的効果は今後も続けていくことが望ましく、学校での昼食が生徒自ら「食」について考え、より望ましい食生活を身につけるよい機会ととらえ、持参の弁当にするか、給食を利用するかを生徒自身が自由に選択できる「選択制」とすることがよりよい方策と思われます。

したがって、吹田市における今後の新しい中学校給食として、生徒が家庭からの弁当持参と給食メニューから選択できる食堂方式又はデリバリー方式との併用が現状の財政状況からみて、また、生徒個々の希望や栄養バランスへの配慮がされた方法であると考えます。』



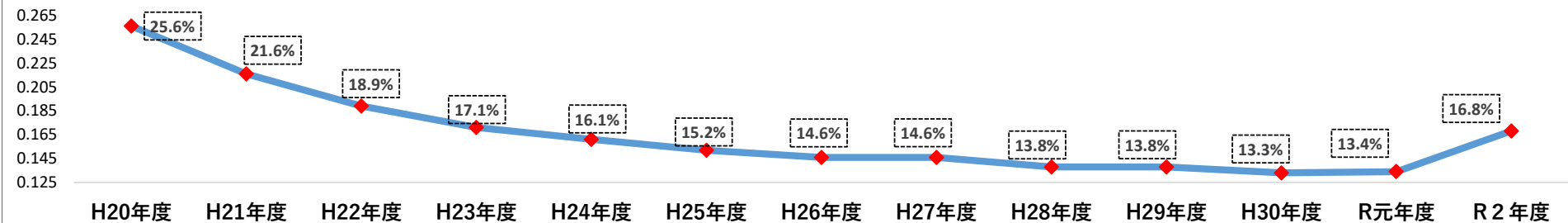
選択制デリバリー方式での給食実施

【給食提供方法等】

学校給食法に基づく学校給食として提供するため、関係法令等を遵守して実施

- ・調理は民間事業者の調理場で行い、ランチボックスに盛り付けて学校へ配送
- ・喫食までは、学校の配膳室で衛生管理基準に基づいて保管して、昼休みに牛乳とあわせて生徒に渡す
- ・献立は市教委で作成。食材は民間事業者が調達するが、小学校と同じ基準(国産・無添加等)の規格の食品等を指定している
- ・保護者負担の給食費340円は、食材費のみに使用。その他の経費は公費負担
- ・申込みには、インターネットを利用した予約システムを使用。希望日を選んで1日毎に予約可能。コンビニ収納によるプリペイ方式を採用

年度ごとの喫食率の推移



*令和2年度は、令和2年6月～9月の喫食率